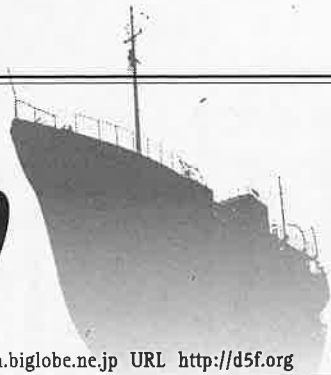


2005.06.01  
No.320

# 福竜丸だより

発行：財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島3-2 〒136-0081 第五福竜丸展示館内

Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail:fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL http://d5f.org



(上) 原水禁調査団のメンバー（左側の二人）からインタビューを受けるロンゲラップ島の被曝住民。1971年12月マーシャル諸島マジュロで。撮影・提供岩垂弘氏

(右) 岩垂氏による1971年12月19日付朝日新聞記事



## ビキニ被災の実態調査をおそれた米国 甦った三四年前の記憶

岩垂 弘 (ジャーナリスト)

今から三四年前、原水爆禁止日本国民会議（原水禁）がビキニ被災事件で被災したミクロネシア・マーシャル諸島住民の実態調査のため現地に調査団を派遣したが、米国によって入域を拒まれ、調査を断念せざるを得なかったという出来事があった。私は同行記者団の一人としてこれに加わったが、このほど、ひよんなことから、当時の取材手帳をひもとく機会を得た。それに目を通しながら、当時、米国がビキニ被災事件の実態が世界に知られるのをいかに恐れていたかを改めて認識した。

私の目を三四年前のことに向けさせてくれたのは、グローバル・ヒバクシャ研究会である。早稲田大学大学院アジア太平洋研究科の竹峰誠一郎氏、広島市立大学広島平和研究所助手の高橋博子さんら若手の研究者の集まりだ。研究会は『グローバル・ヒバクシャビキニ水爆被災と核開発の罪』を編纂中で、六月には刊行の運びという。

### 被害調査の訴え

一九五四年三月一日に太平洋のビキニ環礁で行われた米国の水爆実験では、第五福竜丸乗組員のほか、マーシャル

(2めんにつづく)

(一めんからつづく)

諸島の住民二三人も「死の灰」を浴びた。が、その住民被害の全容は明らかにされな  
いままだった。事件から一七  
年後の一九七一年夏、原水禁  
系の世界大会に参加したアタ  
ジ・パロス・ミクロネシア議  
会下院議員が被害の実態調査  
を訴えた。

そこで、原水禁は同年一二  
月に現地に調査団(六人)を  
派遣した。平和団体でビキニ  
事件の現地に調査団を派遣し  
たのは世界で初めてだった。  
団長は医師で原水禁常任委員  
の本多喜美さん(後に第五福  
竜丸平和協会副会長を歴任)。  
団員には広島大学原爆放射線  
医学研究所の江崎治夫教授も  
加わった。これに、毎日新聞、  
中国新聞、共同通信の各記者  
と当時朝日新聞にいた私の計  
四人が同行した。

#### 米国、入域を許可せず

調査団はグアムを經由して  
マーシャル諸島の中心、マジ  
ュロ島に行き、そこから、被  
曝住民が暮らすロンゲラッ  
プ、ウトリック両島に渡る計  
画だった。全員、米国のビザ  
を取得していた。マーシャル

諸島を含むミクロネシアは当  
時、米国の信託統治領だった  
からだ。もともと、調査のた  
めのビザを申請したが、なか  
なか発給されなかったため、やむ  
なく観光ビザを取得したとい  
う事情もあった。

調査団は二月八日、マジ  
ュロ島の空港に到着。私の取  
材手帳には、その後の経過が  
克明に記録されている。それ  
によると、調査団は、一行を  
出迎えたパロス議員から「前  
日、サイパンにある米国政府  
機関から、調査団の入域は許  
可しないという電報が入った」と告げられる。

調査団は空港近くのホテル  
に足止めをくったまま、パロ  
ス議員やマジュロ在住の実力  
者、アマタ・カプア・ミクロ  
ネシア議会上院議長に事態打  
開を依頼し、両氏は、サイパ  
ンの米国政府機関に一行の入  
域を認めるよう要請した。両  
氏や調査団の要請を受けたマ  
ジュロ駐在の地区行政官(い  
わば高等弁務官にあたる人)  
も米法務次官に一行の入域を  
認めるよう電報を打った。

これに対する米国政府から  
の返事は「調査には事前に許

可を得ることが必要だが、調  
査団はそれを得ていない。一  
番早くとれる航空便でマジユ  
ロから退去せよ。それまでは  
マジュロに滞在することを認  
める。ただし、観光以外の活  
動をしてはならない。マジユ  
ロ以外の島々に行くことも認  
めない」というもので、いわ  
ば退去命令であった。

パロス議員はなおあきらめ  
ず、「ロンゲラップ、ウトリ  
ック両島の被曝住民にとって  
まことに不幸な事態である。  
調査団の入域を許可しないな  
ら、住民たちはAEC(米原  
子力委員会)が核実験後、毎  
年、両島に派遣している、コ  
ナード博士を団長とする医療  
調査団の調査を断ることにな  
るだろう」と米側に伝えた。  
これに対する米側の回答は  
「現行法に基づく決定なので、  
再考の余地はない。コナード  
博士による医療調査が拒否さ  
れば、被曝者にとって不幸  
であろう。被曝者自身が最大  
の犠牲者になろうから」とい  
うものだった。

#### 初の被曝住民インタビュー

一行は、グアム出発以来、  
米側の情報機関員らしい人物

につきまとわれた。マジユロ  
滞在中もホテルのロビーには  
絶えずそうした人物の姿があ  
った。一行がずっと監視され  
ていたのは間違いないかった。  
気持ちのいいものではなかつ  
た。

調査団は、同月一六日にマ  
ジュロを離れた。結局、調査  
は不発であったが、マジユロ  
滞在中、マジュロ島に移住し  
てきていた被曝住民一四人に  
インタビューを行うことがで  
きた。が、米側の目を意識し  
たひそかな調査で、同行記者  
にも「目立たない取材」を求  
められた。

日本敗戦後、日本に進駐し  
てきた米占領軍は「プレスコ  
ード」を発し、広島、長崎の  
原爆被害に関する報道を禁じ  
た。秘密裡に進めてきた原爆  
開発に関する機密が米国以外  
の国々にもれることや、原爆  
被害を知った人々の間から反  
米感情がわき起こることをお  
それたからだ、との見方が一  
般的だ。ビキニ被災事件で  
も、第五福竜丸の被災につい  
て、被災直後、福竜丸はスパ  
イ船でなかったかといった見  
方が、米議会関係者から発せ

られた。

これらの点を勘案すると、  
原水禁調査団についても、米  
国政府側は極度の警戒心を抱  
いていたのではないか。地元  
住民が調査団を大歓迎したに  
もかわらずその受け入れを  
拒否した米当局の強硬な姿勢  
から、私にはそう思われてな  
らなかつた。(元朝日新聞編  
集委員/第五福竜丸平和協会  
評議員)

#### 新著紹介

『核』に立ち向かった  
人びと 岩垂 弘 著

(日本図書センター発行)

三宅泰雄第五福竜丸平和協  
会初代会長をはじめ、「沈め  
てよいか第五福竜丸」を朝日  
新聞に投書した武藤宏一さん  
などさまざまな分野で平和を  
希求し、核廃絶をめざし尽力  
した五〇人が紹介されていま  
す。核問題関連年表付。四六  
判二八二頁一八九〇円





福竜丸から学んだこと

## 劇「わすれない―第五福竜丸」の取り組みを通して

阿部 真弓

### 第五福竜丸との出会い

一昨年、石巻中学校が修学旅行で第五福竜丸展示館を訪れたことに興味を持った私は、昨年二月一四日に第五福竜丸展示館を訪れた。この日は第五福竜丸展示館がリニューアルオープンをした日であった。そんなことは知らずに訪れたのだが、このときから運命的な糸が私と第五福竜丸を結んでいったように思

う。

昨年の夏休み明け、町の図書館で「こんなドラマティックな船があるのだろうか」との思いを抱かせた「わすれない―第五福竜丸物語」(赤坂三好作/金の星社)との出会いがあった。この絵本を読んだとき、胸が高鳴るような気持ちになった。そして「六年生の子どもたちと学芸会で第五福竜丸の劇をやってみよう」と思うようになった。しかし、劇をするには台本から作らなければならぬ。果たして私にできるだろうか。

### 「手紙―託された心」展

を見て

一〇日二日、私は再び展示館の前にいた。いろいろな関係文献を読んだものの、それだけでは台本を作るのが難しかった。藁にもすがる思いで私は東京へ向かった。

また運命的な出会いがあった。

九月二三日は、久保山愛吉さん没後五〇年ということと特別展が開催中で、当時の手紙が公開されていた。その手紙をひとつひとつ読むたびに、心の中になんともいえぬ感動が湧き出してきた。その手紙には、小学生からおとなまで、久保山さんを見守る温かなまなざしがあり、まるでその悲しみを自分のことのように受けとめている日本人がそこにいた。また、久保山さんの手紙には、父親としての娘を思う愛情がいつぱいにあふれていた。今の日本人が忘れかけようとしているものがそこにはあった。教育に携わる自分を振り返り、反省させられる思いでいつぱいになった。

「必ず学芸会で第五福竜丸の劇を成功させる」そんな強い思いがこみあげてきた。

忘れない！伝えたい！

台本を作るために新藤兼人監督『第五福竜丸』のDVDを何度も見た。子どもたちにとって学びのある劇にするために、テーマを「原水爆など

核実験の恐ろしさ」「人の痛みがわかって支えあおうとする、当時の人々の優しさ」「父親の我が子への愛」と決め、台本を作った。第五福竜丸のドラマティックな一生も取り入れるために、武藤宏一さんの「沈めてよいか第五福竜丸」の投書から始まり、第五福竜丸の被爆、帰港、病院生活、久保山さんの死、最後には久保山すずさんの日本母親大会での訴えも入れ、合唱『ヒロシマの有る国で』で終わるという構成にした。事実に基づく台本作りを目指し、当時の写真や手紙もそのまま使うことにした。

学芸会の取り組みをするなかで、何を伝えるのかを子どもたちと考え、学年通信を発行し、保護者にも第五福竜丸のことを知ってもらうようにした。

劇は大成功であった。客席には涙があふれ、保護者からは温かな感想が寄せられた。子どもたちの「第五福竜丸の悲劇を伝えたい」という思いはみごとに達成されたように思えた。

学芸会後の子どもたちの感

想には「原水爆の恐ろしさ」「平和を大切にしたい」「自分でできること」などたくさん思いが述べられていた。

平和への思いを胸にして

その後、子どもたちは戦争や憲法の学習を通して平和への思いをさらに強くもつようになった。二学期の反省に「人のことを思ったり自分の考えがもてるようになったりした。学芸会をやったなんか変わった感じがする」と書いた子がいた。また「平和について考えるようになったのは第五福竜丸の劇をしてからだ」と話した子がいた。

子どもたちは第五福竜丸からたくさん学んだ。そして未来をどのように生きていかなければならないのかも考えるようになった。第五福竜丸との出会いは、私たちだけでなく、未来を託す子どもたちにも大きな意味をもたらしたと信じている。卒業式で子どもたちが述べた。「私達の未来は私達が作ります」の言葉が今も耳に響く。

(宮城県東松島市立矢本東小学校教諭)

## 平和行進などとりくみ 始まる

ヒロシマ・ナガサキの被爆から60年の節目の夏を迎える今年、さまざまな平和のとりくみが始まりました。

5月6日の2005年原水爆禁止国民平和行進の出発式(同実行委員会主催)では第五福竜丸平和協会より川崎昭一郎会長が挨拶、激励しました。5月28日と30日には日本山妙法寺の「2005 平和記念行脚」、「第17回反核平和の火リレー」(日本青年学生平和友好祭東京実行委員会主催)が展示館の前庭を出発しました。



## 平和協会の 理事会・評議員会開催

財団法人第五福竜丸平和協会は、2005年度、第2回評議員会を5月21日に、第2回理事会を5月28日に開きました。

議題は、2004年度の事業報告と収支決算についてで、いずれも報告・提案、意見交換の上承認されました。

事業については、ビキニ水爆実験・第五福竜丸被災50年記念プロジェクトを通年展開し、展示リニューアルから6回の特別展を開催。メディアにも多数取り上げられ、来館者も前年を1.5万人上回る13万4千人となりました。なお、理事会では小川岩雄前理事が顧問に推挙されました。

賛助会員は、現在、個人302人(昨

年4月比で67人増)、団体は59団体(7増)です。

## 児童・生徒であふれる 展示館

今展示館は春の修学旅行のシーズンでもあり、来館者が増えています。小・中・高校生の団体見学は多い日で10校以上が来館することもあり、ボランティアスタッフによるガイドも、展示館の北と南、エンジン前など手分けしておこなっています。ゴールデンウィークを境に、来館者アンケートの回収率も高くなっています。もっとも多いのは第五福竜丸展示館に来たのは「初めて」という人です。

\*事件のことが生々しく心をうたれました。子どももいつになく真剣に読んでいました。(30代・女性)

\*この展示館はいつまでも残してほしい。今回は修学旅行で来ました。次は家族で来たいです。(10代・女性)

\*たまたま立ち寄った展示館で初めて福竜丸のことを知りました。昔のことと言ってしまうとそれで終わりですが、原水爆のことは決して忘れてはならないことだと思いました。(30代・女性)

\*たくさんの事件や事故が起きている昨今ですが、人間の力で防げるものは防ぎ、心して作り出したものを使用することが必要だと感じた。科学者は研究だけでなく倫理についても深く考えられる人でなければいけないと感じた。(30代・女性)

## ボランティアの会 連続学習会

四回目となる「第五福竜丸講座」は、もっとも早い時期から福竜丸保存のためにさまざまな取り組みをしてき

た深井平八郎さん三井周さんと、沈みそうだった船の修理にあたった大工の山口秀夫さんにお話を伺いました。深井さんがデザインした保存運動推進のためのバッジ(裏面に「ビキニ水爆の生証人第五福竜丸の保存を」と刻まれている)、三井さん所有の新聞記事のコピーなど、貴重な資料も寄贈いただきました。

## 平和協会の特別企画

今年は第五福竜丸被災を契機によびかけられた「ラッセル=アインシュタイン宣言」から50年目です。また世界で最初の核爆発「トリニティ」実験(7月16日)から60年を数えます。第五福竜丸平和協会では、それぞれの節目に際し特別行事を企画しています。

ぜひ周りの方へもお勧めください。

\*

### ◇記念講演会

「ラッセル=アインシュタイン宣言」50年と核兵器問題

とき: 7月9日(土) 1:30~4:00  
場所: 神保町・学士会館 203 会議室  
講演: 小沼通二(慶応義塾大学名誉教授・元日本物理学会会長)

### ◇特別展 PIKADON

イラストレーター黒田征太郎氏の作品展。

期間: 7月16日~8月14日

\*オープニング・イベント

7月16日(土) 15:00より黒田征太郎氏を招き、おこなわれます。

訂正・5月号3面の3段3行目「居たたまれない」に訂正します。下段カコミの本文3行目「米国」に、6行目「開かれ」に訂正します。